



令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

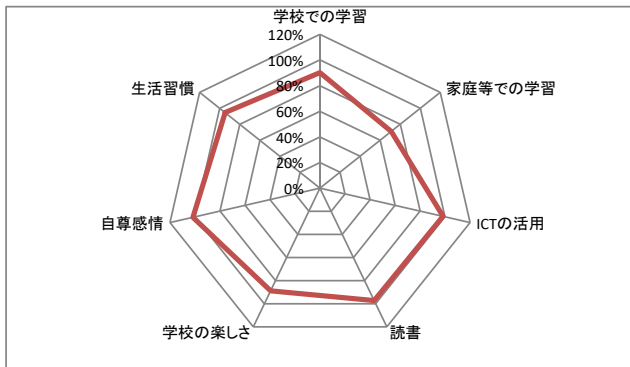
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	内容に関わらず、全体的に正答率が全国平均を下回っている。 特に「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」については大きく下回っている。	下回っている
算数	「数と計算」領域については、正答率が全国平均とほぼ同程度である。 「図形」「データの活用」の領域については、全国平均と比較したときに、他の領域に比べて正答率が低い。	下回っている
理科	領域に関わらず、全体的に正答率が全国平均を下回っている。 特に「『地球』を柱とする領域」の「思考・判断・表現」の観点については大きく下回っている。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

○児童のよさを認めながら指導を続けてきたことが自尊感情の高まりにつながっている。困ったときに教師に相談しやすいような関係づくり、雰囲気づくりに努めていかなければならない。

○授業でのPCやタブレットの活用が進んでいる。考えを共有したり、意見交換したりする場面での活用を増やすことが課題である。

○家庭において携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをする時間を減らし、自主的・計画的に家庭学習に取り組むようにすることが課題である。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

「分かる」「できる」授業をすることを根底に、より意欲が高まるような工夫をする。また、友達の考えを知ったり、意見を交換したりすることのよさや楽しさを感じられるように工夫する。その際にはPCやタブレットを有効に活用する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

学校だよりやホームページに本校の課題を記載し、家庭への周知を行う。また、学習計画を示したり、自主学習の仕方を具体的に教えたりすることで、自主的・計画的に学習に取り組むことができるようにする。